

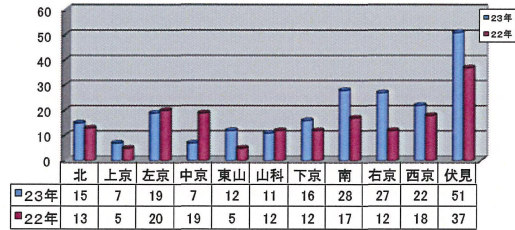
的確な判断と安全な行動 について

平成24年3月9日

北消防署予防課

予防課長 飯室 浩

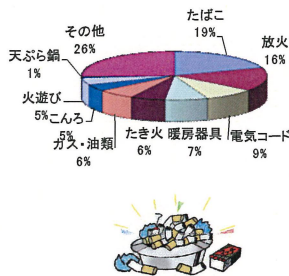
23年火災発生状況 京都市内



平成23年 市内215件 (22年比較 +45件)

北区 15件 (同上 +2件)

火災原因別発生状況 平成23年京都市内

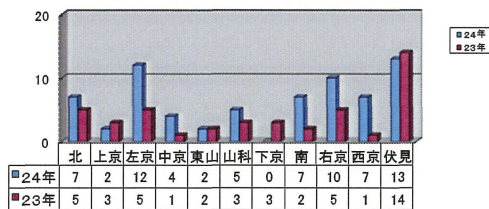


原因	平成23年	平成22年	前年比
たばこ	42	37	5
放火	34	20	14
電気コード	19	10	9
暖房器具	16	9	7
たき火	13	10	3
ガス・油類	14	11	3
こんろ	10	10	0
火遊び	10	6	4
天ぷら鍋	2	3	-1
その他	55	54	1
計	215	170	45

大学生が関係した火災 平成23年北区内

発生日	発生時間	業態	火災概要
2月上旬	12時頃	共同住宅	布団が電気ストーブに接触 1室焼失
2月下旬	16時頃	寮	たばこが枕に落下 布団、毛布、枕等焼失
4月中旬	19時頃	共同住宅	ペットボトルを灰皿代わりに使用 エアコン室外機等焼失
8月上旬	13時頃	共同住宅	天ぷら油の再加熱 換気扇等焼失

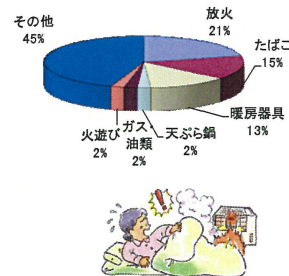
24年火災発生状況 京都市内



平成24年2月29日現在市内 69件 (昨年比較+25件)

北区 7件 (同上+2件)

火災原因別発生状況 平成24年2月29日現在京都市内



原因	平成24年	平成23年	前年比
放火	17	6	11
たばこ	8	10	-2
暖房器具	14	4	10
天ぷら鍋	1	2	-1
ガス・油類	1	1	0
火遊び	2	0	2
その他	26	21	5
合計	69	44	25

大学生が関係した火災 平成24年北区内

発生月	発生時間	業 態	火災概要
2月上旬	20時頃	大学、寮	焚き火が拡大 物置1棟焼失



火事だ！まずどうする？

① 知らせる

「火事だ！」と大声を出して、周りの人や近所に助けを求めましょう。



学校内：非常ベルも活用

小さな火事でも直ちに119番通報を

「火事です。北区小山上総町 大谷大学です。」

「学校の西側、住宅が燃えています。」

火事だ！まずどうする？

② 初期消火

炎が天井に燃え移る前ならば消火が可能です。判断し、落ち着いて素早い行動を

消火が困難と判断すれば、直ちに避難を開始
学校内：消火器、屋内消火栓設備も活用

- 消火器
- ①安全ピンを引き抜く
 - ②ホースを外してノズルを火元に向ける
 - ③レバーを握る（消火薬剤や液が放射）



火事だ！まずどうする？

③ 避難する

消火が困難と判断すれば、直ちに避難を開始

- 避難のポイント
 - ・服装や持ち物等にこだわらず、素早く避難
 - ・一度避難したら、二度と建物の中には戻らない
- もしも煙に巻かれたら
 - ・煙を吸い込まないように濡れタオルなどを口と鼻に当てて、姿勢を低くして脱出しましょう



東日本大震災

平成23年3月11日 14時46分発生
東北地方三陸沖を震源 震源の深さ24 km
宮城県栗原市 震度7
規模 地震直後 M8.8 3月13日 M9.0に修正
マグニチュードは0.2大きくなると地震のエネルギーは2倍
関東大震災（1923年）の約45倍
阪神・淡路大震災（1995年）の約1.450倍
1900年～では、1960年チリ地震M9.5
2004年スマトラ沖地震M9.1 に次ぎ、
1952年カムチャッカ地震M9.0に並ぶ

東日本大震災

被害状況	(5月9日現在)	(11月11日現在)
人的被害		
死者	14,737人	16,079人
行方不明者	9,992人	3,499人
負傷者	5,427人	6,051人
住家被害		
全壊	83,585棟	120,289棟
半壊	31,508棟	189,523棟
一部損壊	256,760棟	616,217棟

東日本大震災

三陸沖の海底は、海側の太平洋プレートが、陸側の北アメリカプレートの下に潜り込んでおり、古くから巨大地震と津波災害を繰り返してきた。

- 1896年（明治29）6月15日19時32分
三陸沿岸M8.5地震 大津波発生 死者22,000人
（明治三陸地震津波）
- 1933年（昭和8）3月3日2時31分
三陸沿岸地震 大津波発生 死者3,000人
（昭和三陸地震津波）
- 1960年（昭和35）5月22日
チリ地震 丸1日後大津波襲来 死者142人

あっ！地震だ

① まず自分の身を守る

- 教室にいるとき
衣服や持ち物で頭を覆うか、机などの下に身を伏せ、落下物から身を守る
- 廊下にいるとき
窓が割れる恐れがあるので、できれば教室に避難し、机などの下にもぐる
- グラウンドにいるとき
落下物の危険のない場所に集まってしゃがむ



あっ！地震だ

① まず自分の身を守る

- 家屋内にいるとき
頭部を保護し素早く外へ避難するか、テーブルの下に身を伏せ、落下物から身を守る
揺れが収まればすみやかに火の始末をする
- エレベータ内にいるとき
すべての階のボタンを押し、停止した階で降りる。途中で停止した場合は、非常ボタンを押し、救助を求め、落ち着いて救助を待つ

あっ！地震だ

① まず自分の身を守る

- 路上を歩行しているとき
ガラスや瓦、看板などの落下物を避け、頭を衣類や持ち物で保護し、空き地や、丈夫な建物に避難する
ブロック塀や、自動販売機のそばなどへは、決して近づかない



あっ！地震だ

② 揺れがおさまったら

- とりあえず安全
しばらくその場を動かない
- 安全とは言えない
状況に応じて避難する
*避難所、広域避難場所



あっ！地震だ

③ 揺れが完全に収まったら

- 情報収集に努める
- 帰宅の判断
公共交通機関が動いていないとき
歩いて帰宅の判断の目安20km
*余震が収まってから
*明るいうちに帰宅できるように
*夜間の行動は避ける

